

せわやがトカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号
TEL 099-227-9771

南北 160 km 「心をつなぎ気概に満ちた」十島の教育

2 月…閉校式と開校式

十島村教育長 有村孝一

1 月初めに、1 本の電話があった。以前勤務した学校からだ。閉校式への出席依頼と惜別の会における歴代校長のあいさつ依頼であった。私は、この学校に平成 17 年から 3 年間勤務した。確か、全校児童数 14 人だったと記憶している。結果として、この学校の歴史の中で、最も児童数が少ない時ということになってしまった。

その頃は、もうしばらくすると、未就学児が多くなるので、20 人を超す日がくるであろうというのを期待していた。予想通りに、今では 30 人近い児童数となり、私も内心喜んでいた。新聞等で、この学校の記事等が出るとすぐに切り取ったりして、時には、懐かしさのあまりに、学校へ電話したこともあった。新聞で見る子どもたちの顔は、とても誇らしげに見えた。

しかし、一方で、新聞では学校再編のことも伝えており、近隣の市町などでも、大がかりな再編計画が挙がっていた。少子化の波が押し寄せる近年、子どもたちの学ぶ環境を考えた時に、やむを得ない事なのかもしれない。

私は、学校から見る春のレンゲやつつじ、サクラの景色、ホテル飛び交う夏の夜の風景、黄金色に輝く秋の田んぼの様子、冬の人々を魅了してやまない雪山の光景が好きだった。学校は、この 3 月に 136 年歴史に幕を降ろすが、人々の心の中にいつまでも、その思い出は残ることだろうと思う。私も勤務した学校がなくなるというのは、初めてのことであり、さみしさが増してくる気がする。

ところで、私たち十島村では、この 4 月から諏訪之瀬島分校と小宝島分校が廃止され、新たに、本校が設置されることとなった。今、その開校式に向けて準備中である。両校とも、85 年の長きにわたって分校として存続してきた。それが、やっと本校になるということで、島の皆さんの喜びは、いかばかりだろうと思う。

本校には、新たに校長が配置され、これまでと違って、毎日子どもたちを見守ることができる。教員にとっては、精神的な支柱としての存在となることは間違いない。学校の雰囲気も変わり、はたまた、島全体の様子さえ変わるかもしれない。それだけ、大きな変化がもうすぐ起ころうとしている。

この 4 月、子どもたちにとって、よりよい学習の条件を求めて新たなスタートを切る 2 つの分校。閉校式

と開校式という両極端のことだが、いずれも子どもたちの将来を見据えてのことである。結果はすぐには出ないかもしれないが、どちらの場合も、この選択で良かったと、ともに喜ぶ日が来ることを願うばかりである。ちょうど、今、惜別の会におけるあいさつ文が出来上がった。心を込めて、感謝の気持ちで思いを伝えていきたい。

祝 口之島小・中学校に学校賞 !



美悠「妹」

2 月 19 日の南日本新聞に大きく出た記事です。「第 31 回県児童生徒ゆめ立体・彫刻展」で、1207 点の中から、口之島小・中学校の 3 人の児童生徒が特別賞に選ばれたのです。学校賞は、入賞者が多かった 7 校で、その 1 校なのです。小中合わせて 11 人という学校から 3 人が受賞



したのです。しかも、中 1 の永吉美悠さんは最高賞の知事賞、中 2 の長谷川海人君は南日本放送賞、小 4 の長谷川宇宙君は学校教育用品協同組合賞と、素晴らしい受賞です。十島村全体のビッグニュースとして大いに喜びたいと思います。今後の、十島村の子どもたちの更なる創作へのチャレンジを期待しています。

シリーズ——島で暮らす

十島村の学校で生活して
「小宝島の大自然に触れて」
宝島小学校小宝島分校 5 年 上三垣和芳

「本船、間もなく小宝島に入港いたします。」という放送がフェリーの中に流れました。僕の胸は、ドキドキとして、はりさけそうになりました。島に降り立つと、周りは知らない人だらけで、緊張が更に高まったことを覚えています。

島での生活は、鹿児島市にいるときと全く違いました。お店がないことです。僕はどうやって食べ物を買うのだろうかと思いました。島では生協やインターネットを利用しています。ここでは、注文してから時間がかかります。また、フェリーが欠航することもあります。今までのぼくは、近くのお店でほしいものをすぐに手に入れることができました。しかし今では、大好きなお菓子を計画的に食べるようになりました。

学校生活で一番びっくりしたことは、水泳学習です。前の学校での水泳は、プールで泳いでいたのですが、島では海で泳ぎます。まず心配したことは、「深いのかな。」「海の中には何がいるのかな。」ということです。実際海に入った時は、こわくて泳げませんでした。しかし、昨年の夏は、海のきれいさや泳いでいる魚を楽しみながら泳ぐことができるようになりました。今年の夏は、もっと泳ぎが上手くなって、深いところまで泳いでいきたいです。これまでの生活で、人前で発表する機会がたくさんあります。おかげで、はずかしがらずに自分の考えを発表できるようになりました。このことは、これからも上達させていきたいです。4 月からぼくは小学校の最上級学年になります。低学年のお手本となるような行動をしていきたいです。



シリーズ——子どもたちの願い

志

「3 学期の抱負」

悪石島中学校 1 年 宮西聖典
悪石島小学校 5 年 西えほん

9 月に悪石島に来て、4 か月が過ぎました。みんなと楽しく学ぶことができました。3 学期は、まず運動面で頑張りたいことがあります。私は、長距離が苦手です。2 学期にあった「トカラ列島島めぐりマラソン大会」や「校内持久走大会」でも、みんなに遅れてしまいました。だから、3 学期は休日なども利用して、走る練習に取り組み、体力を向上させたいと思います。私は、あまり勉強が好きではありません。だから当たり前ですが、テストなどでなかなか良い点数を取ることができませんでした。3 学期は、自分に厳しく、もっとテスト勉強の時間を増やすなど、テストのことを意識して、学習にも取り組みたいです。(宮西君)

3 学期。短いけれど、今の学年のまとめと次の学年への準備をする学期です。また、4 月になると、よいよ小学校の最高学年、つまり、リーダーとして行動しなければなりません。新一年生が入ってくるので勉強だけでなく、毎日の過ごし方でもお手本になりたいと思っています。そのために、私が立てた目標は、周りに言われる前に動くということと、やるべき事を先にやるということです。食事前の準備や洗たく物たたみといった家の仕事、宿題や家の勉強を後回しにしないで、先に終わらせてから自分のやりたいことをするようにしたいです。学校では、自分で先を考えて動けるようにしたいです。新一年生だけでなく、新しく来る

かもしれない友だちにとっても頼りになる 6 年生になりたいと思います。また、朝の委員会活動などの自分の役割を、今まで以上にしっかり取り組んだり、新しく学習する歴史をがんばったりしたいです。

また、もうすぐ兄が島立ちします。兄と過ごす残りわずかな時間を大切にして、高校進学する兄を応援したいです。(西さん)

十島村の小・中学校からのメッセージ

中之島小・中学校 教頭 宮村雄一郎

中之島小・中学校の子どもたちは 17 名、サッカーをしている姿をよく見かける。暑い日も寒い日も一年中、小学校低学年から中学生まで入り混じって元気よく遊んでいる。そこで長年使われているサッカーゴールは手作りだ。あちらこちら傷んではいるが、代々補修され、今でも子どもたちに大切に使われ続けている。

話しは少し変わるが、昨年 10 月、村の子育て支援施設『中之島ほしのこ園』が開園した。中之島には 1 歳から 6 歳までの未就学児が 10 名おり、今年 1 月からは週 5 日、中之島小・中学校の敷地内にある園に通っている。この「ほしのこ園」の保護者から、前述したサッカーゴールを、自分が子どもの頃使っていたという話しを聞いた。ということは少なくとも 20 年以上前に作られたということになる。このゴールは、成長し巣立っていく子どもたちを見送って来たことになる。子どもたちのためにこのゴールを作った人たちの思いも、今に続いている気がしてならない。



私にとって離島勤務は 2 度目だ。最初の勤務の時、離島出身の先輩教師から言われた言葉がある。「島の子どもたちのために何ができるか、何を残せるかが大事だよ。」今、離島勤務 2 年目を終えようとしている。私は、中之島の子どもたちのために何を残し得るのだろうか。残念ながら今は何も残せていない。長年使われ続けるサッカーゴールのように、子どもたちの中に、学校に、そして地域に何かを残していけたらと思う。

教師仲間である「あなた」への私からのメッセージ

教師というのは何よりも経験を積み重ねていくことが大切です。一年一年自分を取り巻く環境は変わります。経験を積み上げ、自分の引き出しを多く持つ教師こそが、どんな場面に遭遇しても、その答えを引き出すことができます。この十島村の小中併設・極小規模校での経験やこの地での生活は、我々教師としての引き出しを広げてくれます。